



松本さんが使うのは、「冷却CCDカメラ」。撮影した画像データをパソコンで処理します。「この撮影方法なら、20等星という目で見ることができないほど暗い星雲などの天体も撮影することができるんですよ。」と松本さん。自分のホームページで写真を公開しています。ホームページアドレスhttp://plaza27.mbn.or.jp/~mat_astro/index.html

おも 星への想いは人一倍 晴れた夜空を見るひとときは 至福の時間です



HITO

松本正夫さん (アマチュア天体写真家)

晴れた夜空に輝く星。だれもがその星や宇宙に想いを寄せたことがあるのではないのでしょうか。そんな星の魅力にとりつかれ、天体写真を撮り続けているかたがいます。「天文学は私のライフワークです。」と話す、青柳にお住まいの松本正夫さんです。福島県で育った松本さんが星に興味を持ったのは小学6年生のとき。「庭先から天の川が見えるような所に住んでいたのだから、星なんて当たり前のように見ているだけでしたが、科学雑誌についてきたレンズセットで望遠鏡を作ったのぞいたら、月のクレーターが見えたり、何となくですが土星の輪が見えたりです。これまで見えなかったものが見えたことに驚きました。」と星との出会いを話します。星への熱が高じて中学生になるともつと遠くの星を見たいと、天文雑誌の通信販売で部品を取り寄

せて自分で望遠鏡を作ったり、天文学者になるにはどうしたらいいかと雑誌の相談コーナーに投書したこともあったそうです。しかし大学に進学して東京での生活を始めるのと、これまでと違う星の見えない東京の夜空に「全然とします。星座の形も分からない夜空に、空を見上げる気が薄れてしまいました。」と当時の落胆した気持ちを思い出すように話しました。そして卒業後は仕事が忙しかったこともあって、星どころではなかったそうです。

こうして何年も星から離れていた松本さんでしたが娘さんに星の話をしてあげようと本屋で天文雑誌を見て、星への熱がふたたび沸き上がったのだそうです。約20年ぶりに望遠鏡で星を見て、小学校のころ見た星への想いがよみがえりました。「と話す松本さんは、この星たちを写真に残そうと、目で見るのでできないほど暗い星まで写すことができる「冷却CCDカメラ」で、遠い星雲や銀河の撮影をはじめました。そして少しでも多くの星が見える所に住みたいと狭山市に移り、自宅の庭に観測用のドームまで作ってしまいました。だれもが子どものころ「基地」にあこがれると思うんですが、このドームが私の基地なんです。何事にもめり込んでしまふ性格なので、中には夜が明けてしまふこともありますよ。今は仕事からの帰り道に



白鳥座にある**あらい**星雲。地球からの距離は975光年、今見えるのは975年前の光です。

夜空を見上げて、晴れているとうれしくなります。」と少年のような笑顔をみせてくれます。「しかし、夜空が晴れていても、写真を撮るのに適した日は1年のうちでも何日もありませんし、周囲の光が消えてよい写真が撮れるようになるのは夜中の12時過ぎなんです。当然睡眠時間が少なくなりますが、イメージどおりの写真が撮れると、とてもうれしくて眠りもふつとびます。」とおっしゃる松本さんの写真は、これまでも天文雑誌に何度も入選しているほどです。松本さんに「これからのことをどうとみんなで考えなければいけないことですが、昔のように天の川が見えるような夜空に戻ってほしいと思います。そしていつかは自分の私設天文台を建ててみんなに公開したいです。そして来てくれた人に星の話をしてあげるのが私の夢です。」と目を輝かせながら話してくれました。きつと松本さんの心の中には星への想いが無限の宇宙のように広がっていることなのでしょう。

市のホームページの役割は 情報の「掲示板」から 「総合窓口」へと変わっていきます



広報課(公式ホームページ制作)



【リポーター】
はんぬき ゆい
半眞由衣さん(つつし野在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、読者がリポートします。



近い将来もっと便利なインターネット社会がやってくると、とても楽しみに思います。
狭山市公式ホームページ <http://www.city.sayama.saitama.jp/>

私は個人のホームページを開設しています。去年の10月にオープンし、毎日更新できるように努力しています。他のサイトを見ることはとても勉強になるので、今回は狭山市の公式ホームページを制作している広報課でお話を伺ってきました。

狭山市の公式ホームページは平成10年12月にオープンしました。開設当時は世界に向けた情報発信という意味合いの強いホームページで、かなり一方的な内容だったそうです。これを昨年4月と今年2月に大幅リニューアル。現在は毎日更新することを心がけているそうです。私も自分のサイトを管理しているので、更新の大変さはよく分かります。職員の方のご苦労が活気あるサイトとして多くの人に見られることにつ

ながると思うと、これからもぜひ頑張ってほしいと思います。

狭山のホームページでお薦めなのは、公共施設予約サービスと図書館の蔵書検索サービス、そして市内在住の重画家である池原昭治さんによる「さやまの絵本」などです。インターネットを利用して借りたい本の予約ができるなんて、小説が好きなら私にはとても便利なシステムだと思いました。また、さやまの絵本は狭山の伝説などをホームページ用に書き起こしていただいているものだと、定期的に更新されていて小さい子にも楽しめるページです。また、昨年のリニューアルで大きく変わったのが、市長への手紙をインターネットで受け付けられるようになったこと。これがホームページに双方向性を持たせる第一歩となり、さらに2月には各課のページもできてメールアドレスが掲載されたので、いつでも質問できるようにになりました。今では市役所全体が情報発信に参加しているそうです。

市のホームページの役割を伺った今、後さらにインターネット人口が増え、ブロードバンドが発達するなど、インターネット整備が進み、企業のeビジネスなども活発になってくると、市役所も電子自治体として発展して、申請などがネット上でできるような形にならなければいけないと考えているそうです。これは、言いかえるとホームページが情報の「掲示板」から窓

口へと変わってくるといいうことで

す。市のホームページが私たち市民と市役所との接点として、総合的な窓口であってほしいと思います。だからこそ、開設当初のような世界に目を向けたサイトよりも、狭山市に暮らす人々やこれから引越して来たいと考えている人に便利なサイトであることが大切なのだと思います。そのためにも狭山市のことが知りたければ、ここを見ればすべて分かるという地域ポータルサイト化も視野に入れた展開を考えていく必要があるという話でした。今、ホームページ先進市と言われている自治体では、すでに意見を交換できるサイトを提供したりしているそうで、狭山市も今後はさらに利用者の意見を取り入れながら、身近で便利なサイトにしていきたいとおっしゃっていました。

もちろん、市民全員がインターネット利用者になるということにはないので、広報紙なども今までも必要だし、それぞれの特性を生かした情報発信をしてほしいと思います。そして、これからは大学・高校入試や小学校から大学まで幅広い学校のイベント情報など、私たち学生にとっても有効な情報を掲載してもらいたいと思います。今回、個人サイトとは違う市のホームページの役割が分かり、これから自分のサイト運営していくためにもとても勉強になりました。

問い合わせ広報課へ内線7161